

若年女性県内就職・定着促進協議会（R2年度開催）における委員・アドバイザーの意見・助言要旨

資料3

伊藤 麻衣子 委員

- ・女性に対する固定的な考えが根強く、県内での女性の生き方に未来を感じられないのが一番の課題だと思う。
- ・非正規雇用も多く、仕事を任せていない状況。職場の意識改革とともに両立支援を充実させる必要がある。



柿崎 委員

- ・全ての年代の方を対象に、アンコンシャスバイアスに気づく機会を設けることが大切。
- ・女性の正社員化と賃金上昇を推進しても、家庭での家事や子育ての役割分担等が解消されなければ、女性は働き過ぎとなる。男性の意識改革と子育て支援が必要。

小口 委員

- ・女性の賃金が低いのは仕方がない等の偏見が残っている。
- ・無意識の偏見・思い込みを解消していくためには長期的な教育が必要。
- ・労働条件を含めれば、中小企業の良さは間違いなくある。



後藤 委員

- ・県内で働いているかっこいい大人を知る機会があれば、県内就職・定着につながると思う。
- ・Youtube等を活用した発信が大切。



齋藤 委員

- ・企業誘致等で、やりがいのある仕事を新しく作ることも大切。
- ・企業において、評価制度の見直しが重要。役職や役割が違うのに同じ評価指標で評価されていることがある。



高橋 委員

- ・仕事も子育ても楽しむなど、充実している方の話を聞く機会を設けることが良いと思う。
- ・土地や物価が安い等、山形の暮らしやすさを若者や保護者、先生に向けてPRすべきではないか。

田中 委員

- ・同期のつながりがないのは地方中小企業の課題だと思う。
- ・UIターン者の雇用の受け皿づくりについて、まずは副業・兼業でマッチングし、山形での仕事に慣れてから、移住につなげてはどうか。



成澤 委員

- ・都市部と比べると賃金が低く、職種、業種が少ないことから、より多くの選択肢を求めるため、都市に若者が流出することに繋がっているのではないかと。
- ・地元で就職する人を増やすためには、賃金の引き上げや奨学金返還支援など、就職のため帰って来たときに、メリットになる支援を増やす必要がある。

松坂 委員

- ・初等中等教育の段階から、継続した働きかけや支援が必要。
- ・県外に進学した学生達にアプローチするためにも、首都圏等の大学と連携し、学生に対する情報提供していくことが重要。また、山形出身者が多い仙台の大学とも連携することが必要。
- ・理系の女子学生などが、専門を生かせる企業を誘致するなど、新しい仕事を作っていく必要がある。
- ・産・学・官・金・労・言のつながり、ネットワークが大切だと思う。



梁瀬 委員

- ・最上地域の生徒は、進学するとき、地域の外に出るといった選択肢しかないのが残念。ただ、出てもまた戻ってくるための環境づくりが重要だと思う。
- ・地域の魅力（新庄祭り等）を仕事や就職にうまく結び付けるといいのではないかと。



矢野 委員

- ・県人会のような学生の組織を作り、そこで県内企業が採用活動を行うというような就職ルートを確認するのはどうか。
- ・コロナ禍でテレワークが進み、地方分散も進んでいるといわれるが、基本的なインフラはまだ未整備。交通網や通信環境などの整備が重要。



結城 委員

- ・首都圏の大学と提携して進めれば、県内に戻ってくる学生が増えると思う。
- ・子育て世代のお母さんたちにとって、育休後に復帰しやすいなどの職場環境づくりは大切だと思う。



渡部 委員

- ・女性労働者の給与額を全国最下位レベルから引き上げるような支援が必要。
- ・山形は自然があり、災害が少ない等の魅力がたくさんあるが、アピールが少なく、もったいないと思う。

森本 アドバイザー

- ・進学時・就職時の県内定着、県外進学者の県内回帰を図るため、「UIターン」の魅力伝える施策等を実施してはどうか。
- ・女性の「やりがい」の創出、働きやすい環境づくりについては、女性の仕事観の啓蒙・男性の育児参加促進など、「やりがい」や「働きやすさ」の改革に向けての機会創出を行ってはどうか。